地域周産期母子医療センター

●スタッフ（2020年10月1日現在）

センター長　河島　尚志

医師数　産科医　8名
　　小児科医　8名

●診療科の特色・診療対象疾患

当センターは令和元年よりMFICU6床を増設し、ハイリスクな母体搬送を積極的に受け入れており、年間分娩数も令和2年度で598件と年々増加傾向となっております。新生児入院数も年間394件と屈指の入院数を誇っており、特に他院からの新生児搬送受入数が166件と都内で2番目の多さとなっております。新生児搬送においても、なるべく搬送元施設の負担を軽減するため、当院医師が同伴の下でのお迎え搬送を行うことを心掛けており、令和2年度も81件のお迎え搬送を行いました。1500g未満の早産低出生体重児の実績も年間約30例程度で推移しており、最先端の診療知識および技術をアップデートすることにより、その生命および神経学的予後も年々改善が得られております。その他、小児外科医、脳外科医、眼科医、耳鼻科医、形成外科医などによる包括的な医療が可能であり、重度の新生児仮死症例に対する脳低体温療法などの実績も豊富となっております。今後も地域の周産期施設から信頼を得られるような医療を提供したいと考えております。

●診療体制と実績

当センターの緊急母体搬送受け入れ数は、平成11年度26件、平成21年度39件、平成30年度 55 件、令和元年度69件と年々増加しています。また、院外からの新生児搬送受け入れ数は、平成10年度62件、平成20年度79件、平成30年度121件、令和元年度178件と増加傾向にあり、都内の周産期センターの中でも屈指の受入数を誇っています。特記すべきこととしては、患児や搬送元施設の負担を軽減するために可能な限り小児科医師同伴のお迎え搬送を行うことを心掛けており、令和元年度の新生児搬送受け入れのうち医師出動は40％以上の77件にのぼります。令和元年度の産科病棟の延べ入院患者数は5,420名（新入院患者数705名）、MFICUの延べ入院患者数は1,276名（新入院患者数106名）、NICUの延べ入院患者数は4,369名（新入院患者数312名）、GCUの延べ入院患者数は2,692名でした。